

高知大学で初期研修

卒後臨床研修のご案内

令和6年度
[要約版]



初期臨床研修部門長 メッセージ

医学生の皆様は、将来の自分の医師としての姿を想像し、どういった研修をすればいいのか迷っているのではないかと思います。臨床研修は医師としての第一歩を踏み出すとても大切な場です。高知県では高知大学医学部附属病院を含め主要な基幹病院が連携し、臨床研修を支援する医療人育成支援センターがあります。私、寺田典生が、初期臨床研修部門長を昨年度より務めさせていただいておりますので、特に高知大学の初期臨床研修の特色をご紹介させていただきます。

「高知県はひとつの大家族やき」。このことばが表しているとおり、『高知家』では県からのサポートもいただきながら、県下の研修病院が総出で病院の垣根を越えて研修医教育に当たっています。現在、県内で約120名の研修医が『コーチ・レジ』を中心に交流し、和気あいあいと研修しています。研修医の皆様に対するサポートは学会出張費用のみならず、進路の相談、産休育休を含めた体調面での相談などをきめ細かくさせていただきます。特に地域枠の先生方に関しては医療人育成支援センターでお一人お一人のキャリア形成のご相談を受けてきめ細かく支援しています。

高知大学の初期研修プログラムには通常プログラムに加え、県内の病院とのたすきがけプログラムもあります。前線病院の経験と大学での高度医療のいいところ取りをしたい方には、これがお勧めです。小児科、産婦人科など進路がほぼ決まっている人にお勧めの重点プログラムでは、最短コースでのキャリア形成がお手伝いできます。

大学病院での研修では、一般的な研修はもちろん各領域の最先端医療が学べるメリットがあります。「大学病院では common diseaseが見れない」と言われますが、実は重症疾患にまぎれた形でこれらを経験でき、『アドバンスレベルの common disease対応力』が養えます。指導医の数が圧倒的に多く、自分のメンターを見つけやすいメリットもありますし、常に学生とふれあい、彼らに教えることで自分が学ぶという幅広い屋根瓦方式を経験できるのも大学ならではの強みです。前線の基幹病院での研修は common diseaseを非常に多く経験でき、また最前線の救急医療の経験も積めます。

多くの先輩の先生方の熱心な指導を受けるなかで、生涯を通じてのキャリア作り、専門医取得や学位取得も視野に入れた後期研修の方向性を親身になって相談にのってくれる多くの先輩方に出会えます。都市部の大規模な研修施設ではなかなか出会えない密な信頼関係を築ける事が高知県での研修の大きなメリットだと思います。後期研修は新しい専門医制度になっており、大学は『施設群』の基幹施設として中心的な役割を果たしていきます。初期研修から専門医を目指す後期研修まで切れ目なく高知県医療人育成支援センターと高知大学医学部は皆さんを支援してゆきます。多くの仲間と友に切磋琢磨でき、将来の可能性を広げる高知大学の臨床研修プログラムへ是非参加して頂きたいと思っております。



医療人育成支援センター
初期臨床研修部門長
寺田 典生

Young Medical Doctors Platform

高知県の若手医師、I・Uターンのためのポータルサイト!

高知地域医療支援センターは、県内の医療機関や関係施設と協力・連携して、高知県の次代の医療を支える医学生及び研修医・専攻医などの若手医師のキャリア形成支援を行っています。

センターが運営するYMDP (Young Medical Doctors Platform) のホームページでは、県内の初期研修・専門研修プログラム、キャリア形成プログラムを紹介しているので是非ご覧ください。

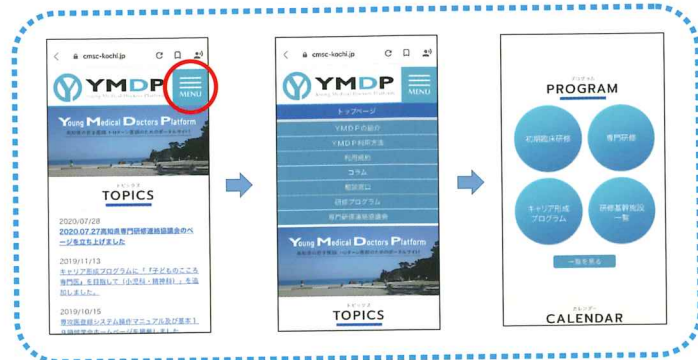
また、若手医師のキャリア形成支援のための相談も受付けていますので、ホームページの「相談窓口」からお気軽にご連絡ください。

YMDP 高知地域医療支援センター
Young Medical Doctors Platform

高知県の安全安心の医療体制を目指して
<http://cmsc-kochi.jp/ymdp/mobile/index.html>



YMDP



高知地域医療支援センター
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部内
電話088-880-2191

初期臨床研修プログラム

8

PROGRAM

初期臨床研修プログラム

令和6年度、高知大学の初期臨床研修プログラムは8です。

高知大学卒後臨床研修プログラム 定員26人

本院の基本的プログラムです。

「将来の専門性に関わらず、幅広い研修を行い、しっかりと基本的診療能力を身につけたい」

「将来は病理診断医をめざしているが、そのために役に立つ臨床経験を実践したい」

「将来は内科医をめざしているが、専門は決めていない。できるだけ多くの分野を研修して自分に合う領域をみつきたい」

など様々なニーズに応えることができます。

高知大学小児科重点研修プログラム 定員2人

高知大学産婦人科重点研修プログラム 定員2人

将来、小児科医・産婦人科医をめざす研修医のための研修プログラムです。臨床研修の基本理念に基づいた到達目標を達成しつつ、専門研修を見据えた基本的診療能力の習得をめざします。

高知大学・近森病院複合研修プログラム 定員4人

高知大学・NHO高知病院複合研修プログラム 定員2人

高知大学・幡多けんみん病院複合研修プログラム 定員2人

高知大学・高知医療センター複合研修プログラム 定員2人

高知大学・高知赤十字病院複合研修プログラム 定員2人

高知県内の5つの基幹型病院とのたすきがけプログラムです。大学病院とそれぞれの病院の研修をいいとこどりでできます。

近森病院は高知市中心部にある民間病院で、多くの救急患者を受け入れており、急性期医療からリハビリテーションまで実践しています。

NHO高知病院は高知市の西部に位置し、地域の基幹病院として重要な役割を果たしています。

幡多けんみん病院は高知県西部、とくに幡多地域で完結する医療をめざす基幹病院であり、周囲の地域医療、へき地医療を支える要となる医療機関です。

高知医療センターは高知市南部に位置し、救命救急センターは高知市周辺だけでなく、ヘリ搬送を利用して高知県全域の高度救急を担っています。

高知赤十字病院は救急救命センターと地域医療支援病院としての機能を活かし、幅広いプライマリケアを習得できる基幹型病院です。

複合研修プログラムでは1年目を大学病院、2年目を近森病院/NHO高知病院/幡多けんみん病院/高知医療センター/高知赤十字病院で研修するか、もしくは逆のパターンで研修できます。

ローテート研修の基本ルール

全てのプログラムにおいて、1年間を1ターム当たり4週又は5週からなる12のタームで区切り、原則として1タームを最小単位としてローテート研修を行うことになっており、2年間の研修期間のうち1年以上は大学病院で研修を行うこととします。(地域医療研修及び保健・医療行政等の研修は12週を限度として、大学病院で研修を行ったものとみなします。)
「高知大学卒後臨床研修プログラム」の基本的なローテートは次のとおりです。

(1) 必修分野

内 科 (24週以上)

1年目に以下の7つの内科診療科から3科を選択し、各8週以上単位でローテートします。

- ①第一内科 胃腸/肝・胆膵
- ②第二内科 内分泌・糖尿病/腎臓・膠原病
- ③血液内科
- ④呼吸器・アレルギー内科
- ⑤老年病・循環器内科
- ⑥脳神経内科
- ⑦腫瘍内科



救 急 (12週以上)

本院では安心・安全な研修を実現するために、段階的な救急研修を行います(ただし「たすきがけプログラム」では異なる場合があります)。

- ◎**ステップ1**: オリエンテーションでの血管確保実習、BLSコース(アメリカ心臓協会認定)、アナフィラキシー対応講習、外科縫合研修、尿道バルーン留置研修、ICLSコース(救急医学会認定)、CVライン研修を行い、救急のための基本的技能を習得します。
- ◎**ステップ2**: 1年目に4週以上の麻酔科研修を行い、気管挿管や循環管理といった救急診療に必須の知識と技能を身につけます。また月2回程度、指導医とともに時間外当直を行い、救急患者の初療対応を学びます。
- ◎**ステップ3**: 上記のステップを修了し基本を身につけた後に、本院あるいは、研修協力病院の救命救急部門(高知医療センター、近森病院、高知赤十字病院、幡多けんみん病院、日本医科大学付属病院)で8週以上の実践的救急研修を行います。

外 科 (4週以上)

本院(外科、心臓血管外科、呼吸器外科)から選択することを強く推奨)又は希望があれば協力型研修病院で研修します。

小 児 科 (4週以上)

本院又は希望があれば協力型研修病院で研修します。

病院DATA

高知大学医学部附属病院はがん治療をはじめ最高水準の医療を提供していますが、私たちは今日の最高水準にとどまらず、明日はまた一つ高みを望める医療を目指します。

- ❖日本医療機能評価機構認定病院
- ❖都道府県がん診療連携拠点病院
- ❖エイズ治療の中核拠点病院
- ❖地域災害拠点病院
- ❖へき地医療拠点病院
- ❖肝疾患診療連携拠点病院



■患者数等の実績(令和4年度)

- ・年間入院患者数 160,120人
439人/日
- ・平均在院日数 一般 12.4日
精神科 64.3日
- ・年間外来患者数 246,186人
1,013人/日
- ・紹介率 76.7%

産婦人科 (4週以上)

本院又は希望があれば協力型研修病院で研修します。1年目の25週目以降での研修が望ましいです。

精神科 (4週以上)

本院又は希望があれば協力型研修病院で研修します。1年目の25週目以降での研修が望ましいです。

地域医療 (4週以上)

2年目に高知県内の自治体病院を核とする8グループの研修病院(嶺北中央病院、梶原病院、大月病院、田野病院、高北病院、大井田病院、渭南病院、くぼかわ病院)から選択して研修します。地域で生活しながら「真の地域医療研修」を経験できます。また、高知生協病院を中心とした地域志向性地域医療研修プログラムや、在宅療養支援診療所を中心とした在宅医療研修も選択できます。希望者は4週間の追加研修を行うことも可能です。

一般外来 (4週以上)

病棟研修を含む分野の研修を8週以上行った後、本院の総合診療部で4週以上あるいは、2年目に十全総合病院で8週以上研修を行います。

(2)自由選択科目

必修分野以外の研修期間は、自由選択科目の研修を行うことができます。2年間の研修の目的やキャリアを考えた上で、科目を選択することが必要となります。アドバイザーとよく相談の上、自分の目的にあったローテート研修を組み立ててください。選択できる科目は以下のとおりですが、協力型研修病院(施設)での研修を選択することも可能です。

第一内科、第二内科、血液内科、呼吸器・アレルギー内科、老年病・循環器内科、脳神経内科、腫瘍内科、小児科、精神科、皮膚科、放射線診断科、放射線治療科、外科(消化器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科)、心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科、麻酔科、産婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科、泌尿器科、検査部、総合診療部・地域医療、病理診断部、緩和ケア、救急

(3)2年間での到達目標の達成

本院では、2年の研修修了時点で、「臨床研修の到達目標、方略及び評価」で「経験すべき症候」「経験すべき疾病・病態」とされる項目を100%経験できるように配慮をしています。未経験項目を早めに明らかにし、必要に応じて短期の「レスキュー研修」を行い、目標を達成します。

(4)大学院との両立

卒後臨床研修1年目から大学院に入学することが可能です。最短で卒後4年で博士号が取得できます。

手術支援ロボット「ダビンチ」

平成24年に手術室に導入された手術支援ロボット「ダビンチ」“Sシステム”に続き、平成29年夏には最新機種“Xi”システムを四国で初めて導入しました。これまでの機種と比べて格段の取り回しの良さ、鮮明な画質、新たな機器や新技術に対応ができるものであり、安心安全な低侵襲手術をより幅広く発展させることが期待されています。



パシエントカート(ロボット部)



サージョンコンソール(執刀医の操作台)

オリエンテーション

安心安全な研修をスタートさせるため、オリエンテーションを行っています。
共通オリエンテーション(県内すべての研修医が合同で実施)と個別オリエンテーション(本院研修医のみの研修)の2段階で実施しています。

共通オリエンテーション(4日間)

講義：保険診療、医療事故防止、地域医療研修、アナフィラキシーへの対応、研修のメンタルヘルスケアなど
実習：患者移送、院内感染対策、採血・点滴法、BLSなど



採血・点滴法



BLS

個別オリエンテーション(3日間)

講義：病院運営、病理解剖・CPC、接遇、インシデントレポートなど
実習：グラム染色・鏡検、診療システム(電子カルテ) 演習、エコー実習、ME機器実習、手術室における医療安全など



グラム染色実習



エコー実習

オリエンテーション終了後には、外科縫合研修、尿道バルーン留置研修、CVライン留置研修、日本救急医学会認定 ICLSコースなどのカリキュラムがあり、救急研修の基本を身につけることができます。

コーチレジ

高知県の研修医は「コーチレジ」の名のもとで一丸となって活動しています。「高知県の1つ1つの病院では、都会の有名病院にかなわない部分もあるのかもしれない。でも県内の研修医、さらには病院が一つになれば、絶対に負けることはない！」その思いの下で研修医が主体の活動を進めています。



「レジデントクエスト」

研修医による研修医のための勉強会で、皆でステップアップしていこうというものです。内容は日常診療に役立つことはもちろんのこと、「失敗談」や「研修で辛かったこと」などの情報を共有する時間も設けています。このような勉強会やその後の飲み会を通じて研修医同士は出身大学に関係なく互いに顔見知りで、非常にいい雰囲気です。研修環境を盛り上げています。

「サマーキャンプ」

サマーキャンプではワークショップや BBQ を通じて、医学生と研修医、また研修病院間の垣根を超えて交流を深めています。毎年、県外の医学生・研修医も参加して頂いています。ぜひ高知県の研修医の雰囲気を感じてください！



協力病院・施設

高知県内のすべての基幹型病院を含む豊富な協力病院・施設から研修先を選べます。

協力型臨床研修病院(27)

国立病院機構高知病院
 高知県立幡多けんみん病院
 高知県立あき総合病院
 土佐市民病院
 高知赤十字病院
 高知医療センター
 近森病院
 近森リハビリテーション病院
 近森オルソリハビリテーション病院
 細木病院
 JA高知病院
 土佐病院
 くぼかわ病院
 独立行政法人地域医療機能推進機構高知西病院
 須崎くろしお病院
 高知厚生病院
 高知鏡川病院
 高知生協病院
 渭南病院
 いずみの病院
 徳島大学病院(徳島県)
 四国こどもとおとなの医療センター(香川県)
 国立病院機構四国がんセンター(愛媛県)
 十全総合病院(愛媛県)
 国立病院機構呉医療センター(広島県)
 東京医科歯科大学医学部附属病院(東京都)
 日本医科大学付属病院(東京都)

臨床研修協力施設(23)

本山町立国保嶺北中央病院
 禰原町立国民健康保険禰原病院
 大月町国民健康保険大月病院
 いの町立国民健康保険仁淀病院
 高知市土佐山へき地診療所
 津野町国民健康保険杉ノ川診療所
 四万十市国民健康保険西土佐診療所
 四万十町国民健康保険十和診療所
 四万十町国民健康保険大正診療所
 仁淀川町国民健康保険大崎診療所
 馬路村立馬路診療所
 佐川町立高北国民健康保険病院
 大井田病院
 高知県中央東福祉保健所
 高知県幡多福祉保健所
 高知ファミリークリニック
 みなみの風診療所
 佐野内科リハビリテーションクリニック
 聖ヶ丘病院
 あおぞら診療所高知潮江
 朝倉病院
 田野病院
 こにしクリニック(愛媛県)



▶ 病院見学のお申し込み

高知大学医療人育成支援センターホームページ(各種お問い合わせ・応募について)
<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/sotu5/p-medical/gaiyou.html>

高知医療再生機構ホームページ(高知で学ぶ⇒研修病院見学支援)
<http://www.kochi-mrr.or.jp/learning/resident/observation.html>



- ◆高知県外在住の方で、高知県内での初期臨床研修または後期臨床研修を検討している方
- ◆高知県内の2か所以上の基幹型臨床研修病院を見学しようとしている方
- ◆高知医療再生機構が、一泊あたり定額1万円(3泊を上限)の助成を行います。

「高知県ブース」

合同病院説明会には、「高知県ブース」として各病院の研修医が勧誘の中心になって出展しています。

「高知県の研修って、県外に出ても全く引けを取らない!むしろ勝ってるじゃないか!」と、自分たちの活動を誇らしく感じています。



令和4年度は、3年ぶりに対面での合同病院説明会へ参加し、多くの学生に高知県の研修をアピールすることができました。一方で、レジデントクエストやサマーキャンプの開催はできず、コロナ禍以前ほどの精力的なコーチレジとしての活動はできていない状況です。

しかし、今後もさらに研修医全員がレベルアップでき、研修医から高知県の医療を盛り上げていく高知県オリジナルの研修環境を作っていくつもりです。みなさん、高知県で初期研修をして、一緒に研修環境、さらには高知県の医療を盛り上げていきませんか。



大学病院で研修って不安ですか？ そんな不安にお答えします。

Q 大学病院って救急が身につかない？

A 高度救命救急センターを有する高知医療センター、高知赤十字病院、近森病院をはじめ、さまざまな形態の救急研修を協力型施設で研修することができます。大学病院でも多くのCPA症例を受け入れるようになり、多くの研修医が急変対応の現場で基本を学ぶことができる体制ができています。

Q 症例数が少ないが、手技はできるようになる？

A 客観的な数字をいえば、症例数は多くありません。しかし、病院での総数と研修医が経験できる数には、大きな隔たりがあります。高知大学病院では、希望すれば研修医が行ってよい範囲でどこまでも指導します。例えば、静脈採血、動脈採血、気管挿管、経鼻胃管挿入、動脈ライン確保、腰椎穿刺、中心静脈路確保（鼠経、総頸）、胸椎穿刺、腹腔穿刺、骨髄穿刺、関節腔穿刺、外傷の皮膚縫合、内視鏡検査、心/腹部エコー、BLS、ICLSなどが経験できます。消化器外科で2か月研修した研修医は、全例で開閉腹、最初から最後まで術者は3例、胆嚢切除、腹腔鏡で胆嚢切除を経験しました。

Q Common diseaseが少ない？

A 高知大学病院には、総合診療部があります。総合診療部は、プライマリ・ケアを行う部門であり、さまざま症状・疾患の患者さんがおいでます。さらに心のケア外来、漢方外来、禁煙外来なども開設しています。病棟研修では身につけにくい外来初診研修を行うことができます。たすきがけ研修や協力型施設での研修を加えることで、多くのCommon diseaseを経験することができます。

Q 雑用が多そう

A 紹介状、検査の同意書、入退院の書類など、どこの施設に行ってもやらなければならない仕事であり、決して雑用ではありません。研修医のうちにマスターしましょう。また、高知大学病院では、診療収入を人件費に充てて、看護師、メディカルクラーク等を増員し、病院機能のレベルアップを図っています。

Q 大学病院は給料が少ない？

A 残念ながら、市中病院よりは、少ないです。その代わりに、学会、セミナー参加には、手厚く補助が出ます。令和4年度はのべ63件の参加がありました。医学図書、DVDは、希望により随時購入しています。また、格安のレジデントハウスがあります。

Q 新鮮味が少なくポリクリの延長に？

A 学生実習で回ると研修医で回るのはスタッフの扱いは全く違います。指導医も科もポリクリの印象と大きく変わることは間違いなしです。

レジデントハウス南風(みなかぜ)

鉄筋コンクリート5階建
居室46室(2階10室、3~5階 各12室)
一部屋当たり:24.82㎡

設備等

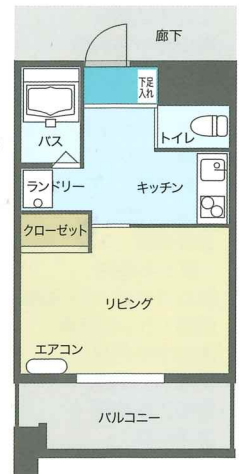
キッチン、バス、トイレ、洗濯機置場
家財等(エアコン、クローゼット、IH調理器、食器棚)
カードキーシステム
インターネット(Bフレットのマンションタイプ)

使用料

宿舍使用料 12,000円/月
共益費 2,000円/月
退去時ハウスクリーニング代
14,300円(入居時前納)
駐車場代 36,000円/年度
(3,000円/月)
(年度により変更する場合がある。)



各階にラウンジがあります。



お問い合わせは



高知大学
Kochi University

高知大学医学部・病院事務部総務企画課
地域医療支援室 臨床研修係(内線:22161)

〒783-8505 南国市岡豊町小蓮
TEL: 088-866-5811 FAX: 088-880-2227
mail: is05@kochi-u.ac.jp

医療人育成支援センターホームページ
<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/sotu5/>

発行 令和5年6月